

報告 平成25年

第4回定例会

平成25年第4回定例会は11月27日に招集され、12月16日までの日程で開催されました。

今議会上程された議案は、予算案2件、条例案12件、一般議案8件の計22件で、発議1件と請願3件がともに各常任委員会で慎重に審議されました。市執行部提出の19議案全てと、議員提出の14議案のうち13件が可決・成立し1件の議案が原案否決となりました。

以下私が所属する『保健消防委員会』での案件審査の結果等を報告します。

補正予算の「平成25年度千葉市一般会計補正予算」、救急患者受入態勢強化を目的とした「平成25年度千葉市病院事業会計補正予算」は全会一致で可決しました。

条例議案の「千葉市火災予防条例の一部改正について」と、貸与した者の中でも市外医療機関に就職する者が多い現状から、利用状況を考慮し、本事業を廃止するための「千葉市看護師等修学資金貸与条例の廃止について」及び、全国的な看護師不足のなか、両市立病院において必要な看護師を確保する目的の「千葉市立病院看護師等修学資金貸与条例の制定について」は全会一致で可決しました。

消費税率の改正に伴い、使用料の額を改定する「千葉市霊園設置管理条例及び千葉市斎場設置管理条例の一部改正について」と、消費税及び地方消費税の税率の引き上げに伴い、使用料を改定する「千葉市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について」は賛成多数で可決し、請願1件については賛成少数で不採択となりました。

議会の前半では各会派の代表による質疑が、また、後半には24名の議員による一般質問が活発に行われ市政を質しました。

一般質問から

当初、私の市政に関する一般質問は、議長・千葉市監査委員等の拜任で、9月に予定をしていましたが、決算審査特別委員長を任じられたため、9月の質問はとりやめ、今回、12月の

本議会において登壇し市政を質しました。

■「健やか未来都市千葉プラン推進」

■「スポーツの振興と施設整備」

■「姉妹都市におけるジャズ文化交流」から特に気にかかる点について市執行部に質問しました。

以下、質問と背景及び答弁、また、私の要望等内容を要約しご報告します。

■健やか未来都市千葉プランの推進について

このプランでは、重点項目を4点定めています。

- ①心肺蘇生法を知っている親の割合の増加
- ②働き盛りの健康づくり
- ③看護支援を必要としない高齢者の割合の増加
- ④COPDの認知度を向上する

この重点項目で私が注目しているのは、COPDへの取り組みです。

COPDという病気は「慢性気管支炎」や「慢性肺気腫」などの病気を総称しているものです。

初期症状がほとんどない場合が多く、見過ごされがちとなり、その結果、二度と元の健康な体には戻らず、さらに症状が進むと、酸素吸入療法なしには日常生活が送れなくなるといふ恐ろしい病気です。

WHO（世界保健機関）では、緊急のたばこ対策を行わなかった場合、2030年には、死亡原因の第3

位になると予測しています。にもかかわらず、COPDの認知度は低く、千葉市の場合、24年度のアンケート調査では、22.7%しかありません。

COPDの主な原因は、喫煙です。

また、長期的な「受動喫煙」も原因とされており、予防対策を講じる必要性は大変高いものがあります。

◎高い喫煙のリスク 禁煙は愛です

以前から、私は喫煙者がガンを発症する割合が高いことに加え、深刻な問題となつて受動喫煙を防止することの重要性について対策強化を訴えてきました。

「COPDの対策イコール禁煙」となるのですが、たばこの煙には、数千の化学物質が含まれており、主な成分は、一酸化炭素、微粒子、ニコチンです。

ニコチンには依存症があるため、それが禁煙の妨げになっていきます。

喫煙者の多くは、脳の多幸感や脳波の安静波にも関与する「ドーパミン」がニコチンの刺激がないと出せないため、ニコチンの血中濃度が低下（約1時間）すると、いろいろな感が発生するので。

一酸化炭素は、酸素の200倍以上も強力にヘモグロビンと結合するため、血液の酸素運搬能力が低下し、頻繁に喫煙すると、慢性的に血液中の酸素が不足し、動脈硬化を引き起こすこと

があります。タールには、発がん性物質が多く含まれており、非喫煙者に比べて、肺がんの死亡率が4.5倍高くなるという報告もあります。

ただし、たばこの点火部から立ち上がる「副流煙」のほうが刺激性も強く、また発がん物質などの有害物質が多く含んでいることが分かっています。

こうしたことから、私達は、あらゆる機会を捉え、たばこの危険性を訴えているのです。

少し古い統計ですが、平成14年度のたばこの税収は、2兆2739億円となつていますが、同年度の喫煙による超過医療費は1兆3086億円、また労働力損失は5兆8454億円と試算もされており、コスト面からも、たばこによる損失は無視できないものとなっております。

千葉市も、健康増進の観点から、またコストの観点からもたばこ対策の強化を進めるべきと思います。

(1) COPDについて

Q ①重点項目に上げている狙いは

A 症状が進むと命に関わる病気にもかかわらず、認知度の割合が低く、大多数の患者が未診断、未治療のままであり、患者の予防や、早期発見のためには、COPDを知っていただくことが大切と考え、取り組むこととしています。

市政に関する皆様のご意見・ご要望等FAXでお寄せください。市政に反映できるよう今後も全力で取り組んでまいります。

(表面からの続き)

Q ②認知度を高めるための手法について

A 平成20年度より、肺がん健診時にCOPDのスクリーニングを実施するとともに、検診票や冊子の中にCOPDの症状や、喫煙が原因であることについて掲載し、周知を図っている。

さらに、区の健康課で実施している健康教育において、COPDについての講演会を実施している。

(2) 受動喫煙対策について

Q ①民間の施設への対策について

A 本市のホームページで、健康への影響や、具体的な対策方法などを紹介、また、飲食店等の講習会において受動喫煙防止対策ステッカーやリーフレットを配布するとともに、ステッカーの掲示店名を本市のホームページに掲載するなど、積極的な取り組みを支援している。

さらに、事業者向けの健康づくり事業でも、受動喫煙防止対策を加え、取り組みを推進している。

■要望(分煙・禁煙の推進) こうした肺疾患等の病気によって亡くなる方を少なくするためには、禁煙を推

進することが基本になります。

職場や、飲食店での分煙・禁煙を決め事として、強い行政指導を発揮し、また、自治会等の公共施設に対し通達を行い、分煙の徹底を図ることを願います。

市民や医師会等の関係者と連携してプランの推進を図り、全ての市民が健康で暮らせる「健やかな未来都市ちば」となるよう、要望します。

■スポーツ振興と施設整備について

「2020年夏季五輪・パラリンピック」の東京開催が決まりました。

プレゼンテーションのスピーチで、プレゼンターは見事に開催にふさわしい都市であることをアピールしたと報道されています。

なかでも、「パラリンピックの代表選手、佐藤真海さん」は、自らの体験を基にスピーチをしています。

彼女は19歳の時に骨肉腫を発症し、絶望の中から義足を着けての陸上競技に取り組み、目標を決め、それを超えることに喜びを感じ、新しい自信が生まれてきたとのこと。

「アテネ五輪・パラリンピック」に出場し、スポーツの力に感動させられたこと、また、「東日本大震災」において、被災した家族の無事を確認した時の個人的な幸せなど、国民の深い悲しみとは比べものにならない

いと感じたと言っています。

被災した人たちにスポーツの力を自身の経験を通して伝え、200人を超えるアスリート達とともに被災者のスポーツへの参加を通じて、自信を取り戻す手伝いを行いました。

彼女はスポーツの力を3点に要約しています。

①新たな夢と笑顔を育む力

②希望をもたらず力

③人々を結びつける力

多くの被災者が元気を取り戻していったスポーツの及ぼす力を感じ、そして、これらの貴重な価値、友情、尊敬が言葉以上に大きな力を持つと結んでいます。

千葉市には、厳しい練習を乗り越え、パラリンピック知的障害者の部100M平泳ぎに出場し、世界新記録で優勝した『田中康大選手』がいます。

彼の主な練習場は、コース幅が広く、伸び伸びと泳げるプールを持つ習志野市千葉県国際総合水泳場です。

Q ①本市のスポーツ振興に「東京五輪・パラリンピック」をどのよう

に活用しようとしているか

A ジュニア選手の育成やオリンピックアン・パラリンピアントとの交流機会の創出に努めるとともに、参加国の事前キャンプ地としての施設活用、競技力向上や障害者スポーツ振興のための施設整備のほか、広報活動を行うなど、開催に乗じたス

ポーツ関連施設を複合的に展開することで、環境の整備につなげたいと考えている。

Q ②千葉公園プールと体育館を合築させて機能を相互利用することで、全国大会にも対応できる施設として整備すべきと思うが

A 千葉公園プールは市内唯一の日本水泳連盟公認競技場であり、千葉体育館は、市民総合体育大会・中学総合体育大会など多くの大会が開催されるが、老朽化が著しく、設備上の問題点があると認識している。

千葉公園プール、千葉公園体育館、千葉市武道館などのあり方について、次期実施計画の策定の中で検討する。



公園プール

■要望(施設の整備)

スポーツに参加するきっかけは、千葉市からの選手がオリンピック・パラリンピック等の舞台で活躍する姿を応援することも大きな要因となり、トップアスリートを育てることも重要な

こととなります。

スポーツを振興し、活力ある行政の確立に繋げることは大変重要な施策であり、国も「スポーツ庁」を創設するとしています。

老朽化の著しい公園プール、体育館、武道館は近い将来建て替えが必要となります。国の動きも捉え、スポーツ施設の整備を行うことを強く要望します。

■姉妹都市におけるジャズ文化交流について

平成8年に提携したスイスのモントルー市では、ジャズの祭典である「モントルー・ジャズ・フェスティバル」が毎年7月にレマン湖畔で開催され、世界的なジャズの演奏家が多数参加し、市民をはじめ世界各地から集まった大勢の観光客で賑わっています。

多くの人が集い、良質な音楽を楽しむことは都市の魅力を上げ、市民のアイデンティティを高めるものと考えます。

本市でも毎年10月に開催される「ベイサイドジャズ千葉」はモントルーのようなジャズの祭典を実施することで、街並みの活気と賑わいをもたらそうと始まったイベントです。

Q ①「ベイサイドジャズ千葉」の開催状況と新

たな取組みについて

A 10月5日に、中央公園など7か所の無料会場や、文化センターなどの16か所の有料会場で、約80人のプロと350人を超えるアマチュアミュージシャンが演奏し、およそ6700人が来場した。

新たに、文化センターから千葉みなと駅までの無料シャトルバスを運行したり、パンフレットに演奏ジャンルごとの「おすすめコース」を掲載するなどした。

Q ②「モントルー・ジャズ・フェスティバル」との交流について

A 海外アーティストなどの招聘や、国内アーティストの派遣などは多額の経費が見込まれ、現時点では難しい状況であるが、ジャズを通じたモントルー市との交流は今後検討していきます。

■要望(交流と応援)

大きな経費負担をすることなく、開催内容を工夫するなど、多くのジャズファンを増やし、ジャズ演奏家の活躍の場を拡大してもらいたいと考えます。

スイスとの国交150周年を迎える来年度に、民間団体が行う「モントルー・ジャズ・フェスティバル」との交流を応援して頂くよう要望します。